

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵日より
第26号
2019(平成31)年2月26日
(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

ツムの上で糸が踊る — 心棒の芯の具合 —

糸車で木綿の糸を手紡ぎする者にとっての必読書、とでもいうべき本があります。佐貫尹、佐貫美奈子『木綿伝承—手紡ぎ手織り入門』(染織と生活社 平成9年刊)です。きわめて個人的な感想ですが、これほど手紡ぎのイロハについて、手とり足とり実際に指導を受けているような感覚で読み進むことのできる本を他に見たことがありません。逆に言えば、糸車で糸を紡いだ経験のない人にとってはなかなか理解し難い内容と言えるかもしれません。それだけ実践的であるということです(『続 木綿伝承—先人に学ぶ手わざと心』(平成21年刊)については本誌第16号で触れています。両書の内容は一部重複しています)。木綿の糸を手紡ぎされている方は、ぜひ一度手にとって見られることをお勧めします。

ところで、毎日1匁(約3.75g)の手紡ぎを自らに課している中で、その本を読んでもどうしても解けない謎がありました。それは、糸を紡いでいる最中に、ツムの上で糸が踊る原因についてです。「ツムの上で糸が踊る」とは、左手にジンキを持ち、左斜め後方に引き出した糸の手許を留め、撚りを加える際に、右手で糸車を時計回転させると、本来であればツムの先端で糸に撚りがかかるはずのところ、すでにツムの上で巻き取っていた糸が緩み、大きな輪をつくって糸が暴れるのです。なぜ糸が踊るのか?。この原因がなかなか分からず、しばらく悩まされました。

あれこれと分析を試みるうちにわかったことは、糸が踊る現象は、ツムに巻く芯を取り替えた直後には生じにくく、ツムに巻き取った糸が大きな楕円状になってきた後半に頻繁に生じる傾向がある、ということです。また、大きな輪ができるということはツムが空回りをしているからかもしれないと考え、芯の差し込み具合を確認しますと、わずかに緩んでいることがわかりました。「これだ!」。わかってしまうと、気が抜けてしまうほど単純な理由でした。

同時に、「糸が踊る」現象が前掲書では触れられていない理由もわかりました。著者が使用されていた糸車は、糸をツムの心棒に直接巻き取り、紡ぎ終えた後は、心棒毎取り替えるタイプだったのです。心棒に芯を巻く必要がないために「緩み」などが生じるはずはありません。

ところで、心棒に巻く芯についても、試行錯誤を繰り返してきました。尾花の茎、葦の茎、竹の皮などです。しかし、いずれも植物性のため、どうしても心棒に錆が生じます。また、糸を巻くとその圧力で芯が抜けにくくなります。たどりついたのが紙製の芯です。7.5cm×10.5cmほどの上質紙を心棒に巻き付け、セロテープで仮止めして筒状にします。それを一度、心棒から外し、あらためて心棒に差し込む時に、ゴム製の歯間ブラシを隙間に差し込みます。これによって、錆の問題と抜くときのストレスを解消することができました。

糸車にかける「はや糸」の質も大切です。100円ショップのタコ糸はすぐに切れてしまいます。細すぎてもダメです。現在は大工工事用の水系の2mm糸を使用しています。ツムの角度は、その次の問題となります。



ツムの心棒に紙の芯を取り付けて紡ぐ

Monthly Data

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 平成31年1月24日～平成31年2月23日)
東京都1、石川県1、愛知県1、奈良県1、岡山県1、福岡県1

【H.A.M.A.木綿庵】(平成31年1月24日～平成31年2月23日)

メールを含む各種相談件数2、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数2件2名



《綿の栽培記録 2019》 — 平成31年度版 その1 —

平成31年の1月から2月にかけて、綿を植える予定の畑の土作り、畝作りをはじめました。「寒(かん)のうちに土を起こす」は、当地の人々の慣例に倣ったものです。凍てつく時期に土を起こしておく、凍結と融解の繰り返しによって土が柔らかくなると教わりました。また、立春以降は雨の日が多くなるので、それまでに畑の水回りを確認しておくという意味もあります。

また、1号畑では10年以上にわたって連作を繰り返していますので、土壌改良のために、宅前の小川の川砂を鋤込みました。綿は砂質土壌を好むためです。



《施設見学 — 大正紡績株式会社 —》 2019年2月8日(金)

平成31年2月8日(金)、大阪府阪南市黒田にある大正紡績株式会社様をお訪ねし、工場を見学させていただきました。「大正紡績」といえばオーガニックコットンの先駆者として、また全国コットンサミットの事務局、東日本大震災で塩害を受けた沿岸農地の再生を目指した「東北コットンプロジェクト」の生みの親の一人としてもたいへん有名な会社です。

当日はお忙しい中を、営業部の課長様、開発部主任様が案内してくださり、海外から輸入された原綿が山のように積まれた倉庫、その原綿をほぐしながらゴミを除去する工程、さらにカード機(梳綿機)、ジンニング機(種取り機)が稼働する様子も見せていただくことができました。

もっとも感動したのは、世界最高品質(超長繊維)のスーパーコットン・オーガニック100%の、コマ・スライバーに触れさせていただいたことです。スライバーとは、工程の過程でホース状になった打ち綿のこと。コマとは、その綿の中からさらに短繊維を除去し、長繊維のみで仕上げたもの。すなわち、スーパー・オーガニック100%・コマは、機械紡績用としては紛れもなく世界最高品質の綿ということになるのです。その手触りと輝きは、まるでシルクのようにもありません。

【綿の加工の作業記録】 (梅田1人の作業量)

- ・糸車を用いての糸紡ぎ量 (和綿：平成28年, 2016産。丹羽正行氏による打ち綿)
1月24日～2月23日 (作業実日数24日) 糸の総量107.4g (28.6匁) 総時間299分 (4時間59分)
※1分間≒0.359g 1時間≒21.5g (5.7匁)

【研修等の記録】

- ・平成31年01月27日「子ども・若者支援のための事例検討会②」(奈良教育大学) 参加
- ・平成31年02月03日「子ども・若者支援のための事例検討会③」(奈良教育大学) 参加
- ・平成31年02月08日 大正紡績株式会社(大阪府阪南市黒田)を訪問。工場を見学させていただく。
- ・平成31年02月08日「歴史館いずみさの」(大阪府泉佐野市市場)を訪問、見学。

【以下の写真は、左：ジンニング機の前で営業課長様と、中：工場内、右：原綿が積まれた倉庫。大正紡績にて】

